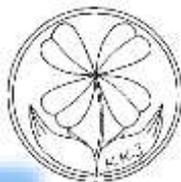


第4号

KenKouJi ニュース



2019 (令和元) 年12月23日

神奈川県公立小中学校等事務研究協議会

会長 柿本 みゆき

広報部長 大谷 健次

小田原市立下曾我小学校

TEL 0465-42-1607

神奈川県公立小中学校等事務研究協議会ニュース

はじめての全体研修会 開催しました

「日本社会の変容と教育の課題」～学校事務職員に求められるもの～

例年開催していた「神奈川県学校事務研究大会」は3年に一度となり、あとの2年は神奈川県内の事務職員向けに、半日日程の「全体研修会」を開催することになりました。

今年度は、12月6日(金)に横須賀市はまゆう会館にて初めての全体研修会を開催しました。

当日の様子をお知らせします。

【講演】

東京大学大学院 教育学研究科 教授 本田由紀氏による「日本社会の変容と教育の課題」～学校事務職員に求められるもの～と題しての講演がありました。

《講演概要》

日本社会の変容を「かたち」として捉えると、戦後の日本社会は世界標準とは大きく異なる、もっといえは全く逆の循環モデルを展開していた。家族はいわゆる団塊の世代、さかんに消費行動をしており、それが豊かさの指標にもなっていたが、そこには学ぶことの本来の意味や意義が失われていた。進学率の上昇に伴って、教育上の期待が高まり、職に就くまでに時間の隙間なく新規学卒一括採用で新たな労働力を獲得する流れがそこにはあった。多くが正社員で長期安定雇用・年功賃金が確保されており、この一方向的な循環に乗って成功する以外の選択肢が用意されていなかった。政府はというと教育に対する支出を抑制しており、公的な教育支出の少なさ、これは世界的に見ても類をみない。学ぶ・働く・家族の領域において、当事者は別々の社会領域(父は仕事、母は家庭、子は学校)に力を注がなければならなくなっていった。

1990年代以降、バブルの崩壊で日本型循環モデルが破綻する。老若男女すべての層において厳しい状況に立たされてしまう。賃金や労働時間などの条件の劣悪化に伴って、共働き世帯が上昇。家族間でも格差が現れ、その格差がそのまま教育に、次の社会領域に力を注げなくなった。その結果、フリーターやニートを生み、セーフティネットも機能せず非正社員が増加し、苦しいひとが苦しいひとを生む悪循環を生んだ。

では、現在の日本はいったいどんな社会か、国際比較データから日本社会の特殊性が見えてくる。まず、経済の衰退・人口の縮小傾向が見えてくる。次に不合理性・非効率性・機能不全。例を挙げるとわかり易い。いまだに印鑑を使っている国、FAXを使っている国はない。それから、きまじめ・やりすぎ・不寛容。これも例を挙げると、かけ算の順序を間違えるとたとえ答えが合っても×になって

ご参加
ありがとう
ございました!



しまう。ひっ算の線を定規で引くなどのスタンダードがいまだにある。

そして格差と分断。とくにジェンダー面、大都市と地方都市の分断、正社員と非正規社員の分断。また、「自己責任」を前提とする政策と人々の意識として、自分で生きることを自明のものとし、それができなければ自己否定に陥ってしまう。その結果の諦念(ていねん)、無力感、自分にはどうすることもできない、何も変えることはできない、と感じてしまっている。

家族はどのように変化しているのか。とくに若年層の貧困率が上昇している。未婚率も上昇している。共働き化が進み、女性の就労が増加。家族の余裕がなくなる中で、家族関係の破綻も増加している。子育てに投入することができる資源の格差が進み、それを自明とみなすようになっていく。



仕事はどのように変化しているのか。非正規社員の増加と正社員との格差。正社員も賃金が上がらず、長時間労働も大きくは改善していない中で「やりがい」による動機付けが浮上している(「やりがい」を搾取して厳しい労働を受け入れさせる)。他方、従来の日本独特の、世界標準とは大きく異なる「メンバーシップ型雇用」、正社員とは異なる「ジョブ型雇用」が一定の存在感を持ち始めている。

日本の教育の特徴と変化。時期により、垂直的多様化と水平的均質化の度合いには変動がみられたが、今世紀に入っていずれもが強力に推進されるようになった。それらは児童生徒の中に出身家庭の社会階層に基づく格差化と排除・抑圧を生み出している。不安定化・格差化する家族と、要求水準が高まる仕事の狭間で、学校と教員は過重な負担と資源の欠如のものとで疲弊している。子ども・若者の現状はデータからみると、自己肯定感の低さ、社会問題解決への意識の低さが表れている。

この現状をどう乗り越えるのか。目指すべき方向として、誰もがそれぞれに尊重され可能性を發揮することができ、安心して生きてゆける社会。すなわち、今とは逆の社会へ180°ベクトルを回していく必要がある。新たな社会モデルは、それぞれの領域の連携関係を再構築する。家族と教育の関係でいえば、学校や保育が家族の負担を軽減する、家族間の格差の連鎖を教育で防ぐ。教育と仕事の関係では、教育の職業的意義をもたせ、仕事と家族の関係ではワークライフバランスを重視する、など。垂直的多様化・水平的均質化を弱め、水平的多様化を生み出すために、学校の変革、教育制度と労働市場の変革が必要である。

学校事務職員の役割の重要化。児童生徒が多様化し、学校の負担が増える中で、学校事務職員の役割の拡大・向上への期待が高まってきている。学校事務職員の役割が重要化すると考えられる業務として、文書や情報の作成・管理、行事等の運営、広報、施設設備の更新・管理、学校運営に参与する多様な存在との対応・調整、そして児童生徒とその家族に関連する諸領域との連携が挙げられる。

ただし、すでに学校事務職員も多忙化が進んでいる中で、際限なく事務職員の担当範囲が拡大することは問題が大きい。しかし、学校組織の基盤を維持改善し、学校外との多様な交渉業務を担うことを、学校職員の専門性の核とみなし、職務範囲・内容の見直しと、その遂行のためのスキル形成を充実させていくことが、中長期的には期待される。教師がやるのは難しいこと、学校事務職員だからできること、学校事務職員でなければできないことを明確にしていくことは、学校全体を良くしていき学校事務職員の地位を高めるためにも望ましいと考える。そのためにも、学校事務職員の様々な専門性を高めることができる研修や勉強会が重要である。

“県公事研 web サイト” はじめました！

県公事研が発足して1年半以上経過しましたが、ようやく県公事研独自のサイト「KKJweb」が完成しました。いままで「ホームページ神事研」のページでお知らせしていた県公事研の様々な活動、ニュースを、これからは県公事研独自のサイト「KKJweb」でお届けしたいと思います。



こちらが「KKJweb」！！

この6つのボタンから、県公事研の主な活動・情報をご覧いただけます

速報アルバムはこちら！
全体研修会の様子もアップされています

ご協力いただきました「実態調査」の報告も掲載する予定です。
みなさまに楽しんでいただけるよう、サイトの充実に向けて様々な情報を掲載していきたいと思っています。「KKJweb」をどうぞよろしくお願いいたします！！

あるある川柳「第2弾」ご紹介！！

ちょっと待て マスター遂に 入ってる

ペンネーム：こうちゃん

エピソード：印刷機が壊れると事務の声がかかります。手が真っ黒になることもしばしば。職員が交換して故障？その理由は意外と単純だったりしても、なかなか気づかず、いろいろ開けてみて、そんなこんなで午前中が終わることも

買ったけど 同じものが ありました

ペンネーム：こうちゃん

エピソード：在庫を確認したはずなのに。そんなときに限ってたくさん注文してしまったり…

明日使う！ も少し早く 連絡を！

ペンネーム：じむやまじむこ

エピソード：「ビニールテープの水色10個ほしい、明日使うの！」事務室は卸問屋じゃないんだから…ちょっと変わった色とか大量なものは近所の文房具屋さんにもないときあるのですよ。「〇〇さん（業者さん）、明日までに納品お願いできますかー??(泣)」

年長者 記憶が邪魔する 年調時

ペンネーム：梅太郎

エピソード：職員番号・氏名が打ち出されていた年調報告書が恋しい。今は職員番号が合っているかどうかヒヤヒヤ。同じ職員が分身の術で？4、5人いるような報告書を見ると、目がかすんでいるのか、現実なのか